

シリコンバレーとイノベーション



DOCOMO Innovations, Inc.
President & CEO

いながわ たかゆき
稲川 尚之

私がシリコンバレーに赴任して約1年半が経ちます。DOCOMO Innovationsは、以前はDoCoMo Communications Laboratories USAという名の研究所で、2011年に現在の社名に変更されましたが、これは時代の流れに即した形に「変化」したものです。この1年半で私がこの目で見てきたシリコンバレーの変化はめまぐるしく、常に競争が起こっています。そのようなシリコンバレーに拠点を置くDOCOMO Innovationsでは、現在4つの活動グループがあり、それぞれの領域で業務を行っています。移動通信技術の研究活動を行うResearch Group、米国のスタートアップ企業とのビジネス開発支援や投資を行うBusiness Development/Investment Group、クラウドやデータマイニング*1に関する技術の検討を行うNetwork Service Innovation Group、主にAndroid™*2関連のパートナー企業と連携して端末の企画開発を支援するAndroid (Advanced) Product Innovation Groupがあります。当初の研究所時代から比較すると業務領域が多岐にわたっていますが、どれもシリコンバレーにおいて時代をリードしている領域です。

イノベーション (innovation) とは、既存技術の組合せで新しいものを生み出すことで、インベンション (invention) とは違い、すぐに製品化やサービス化されて世に出て行き、そ

に競争が生まれていきます。そのため、ビジネスと直結した形での技術開発が主流となりスピード感をもった研究開発が求められています。HP, Intel, Appleなどの老舗からGoogle, Yahoo!, Facebook, Twitterといった新進気鋭まで多くの有力企業が並ぶ中、それに続けと多くのスタートアップ企業が生まれています。その中では技術が長けているものばかりでなく、ビジネスアイデアに富んだものや業界構造を壊して新しい価値を生み出す企業もあり、そういった動きが世の中に大きく影響を与えています。一例として「Sharing Economy」と呼ばれる分野があります。UberやAirbnbといった企業が筆頭に挙げられますが、個人がもっているアセットを共有して新たなビジネスの機会を創出するエコシステム*3です。既存業界の構造を壊し、そこにモバイルの技術が加わって利便性やサービスの質を追求し、人気のサービスが生まれています。タクシー業界に殴り込みをかけたUberは、先日\$17Billionという破格のバリュエーションがなされました。こういった動きが新たなビジネスの可能性を広げています。

2003年から2013年の10年間に設立されたアメリカの\$1Billion以上のバリュエーションのスタートアップ企業は39社あり、その39社を見ると、CEOの平均年齢は36歳で技術系の大学卒です。日本は理系と文系で別れていますが、ここでは現在その垣根はないと思います。現にCEOとCTOの境目がなくなってきており、技術者もビジネスセンスを求められる時代になってきています。非常に特徴的なのは、投資家によって集まった資金を使って、製品やサービス（アプリケーション）がスピード感をもって世の中に出てきている、ということです。もちろん、鳴かず飛ばずのものもたくさんありますが、若い世代が知恵を絞って新しいことに挑戦しているこの環境が、さまざまなイノベーションを起こしています。皆さんも世界に目を向け、イノベーションを起こせる技術者になってください。DOCOMO Innovationsはこれからもドコモのお客様に喜ばれる製品やサービスの実現のため、アメリカから活動および支援していきます。

*1 データマイニング：統計学、パターン認識、人工知能などのデータ解析の技法を大量のデータに網羅的に適用することで、その中に潜む項目間の相関関係やパターンなどの知識を取り出す技術。

*2 Android™：米国Google, Inc.の商標または登録商標。

*3 エコシステム：複数の企業が事業活動などの分野で連携して、お互いの技術や資産を活かし、消費者や社会までも巻き込んで、研究開発から販売、宣伝、消費にいたる一連の流れを形作る共存共栄の仕組み。